

刊夕日七十二月五

常 新 日 新 聞

定価 一部全額一ヶ月 定額五円
 廣告料五號十二字 行金五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常新日新聞社
 印刷所 常新日新聞社



思言行の一致

S O 生

言行一致は貴ぶべきことであるのは言ふまでもない。しかし、その一致といふ意味に於いては狭い早い所、すぐ一致するといふ場合もあるが、長い遠い間を隔て、一致するといふ場合もある。言行一致を假りに空間的に考へれば、すぐ目の前で一致の場合もあらうが、百里、二百里、或は東西洋をめぐりめぐつて一致する場合もある。これを時間的に云へば、今日明日とすぐ一致することもあらうが、五十年、百年の後に一致するといふこともある。言行一致は貴ぶべきことであるが、その意味にはいろいろあることを知らなければならぬ。言と行とは一致すべきであるが、すべき

ノート

は見た目には淡色の方がきれいだが顔を引立たせるには割合に濃んだ色が背景的の効果が多

といふことを人に約束したとか、話したとかいふことだけでなく、自分の心で自分に語ることに言ひなほし

【朝】味噌汁——干瓢 小付 うぐひす豆
 【晝】煮付 なまり節 さやえんどう
 【晩】ビーフラーキ 薄味煮

更に熟すと實行されることになる。尤も我々の考ふることは行ひ得るとか、得ないとかいふことばかりでなく、たゞ知るといふだけについて考へることもあるから、思と行といふ問題をいはゆる言行一致式に直線的に考ふることは、論が粗雑だといふ批評もあるかも知れない。しかし、こゝではそんな面倒な話は止して置く。



「雑」詠

千真 希童
 知りもせで何んのかんの知つた振り
 完成の域に達して氣が狂るひ
 摘草の子を追つ拂ふ蛇が居り
 摘草は蜂にさゝれて仕舞なり
 花摘みが蝶々追ひにと早がわり
 寝轉んで見ても蓮華草綺麗なり
 友達を泣かせて来たて手柄顔
 一年生親ほど見える高等科
 今度こそ負けぬと父は負けてやり
 遠足日暗いうちから騒ぎ出し
 乳母車打つちやらかして花を摘み
 農繁季返事だけして追ひやられ
 麥笛と口笛が行く田圃路
 カメラマン一度座つて寫すなり

療 治 と 防 疫

★ クスリはホシ

「花柳病の療防と治療法」に關する小冊子あり
 ホシチエンストアに無
 き時は本社醫務部宛御
 申込あり無料にて速時
 送附す

花柳病療防薬
ホシペツセル 1.00
 本剤は花柳病療防薬にして、キニーネ鹽類及びオルト酸化ビリン酸基物を主成分とし、微生動物に對する死滅力が強烈である、然して人體には無害である。
 全國ホシチエンストアにてお求め下さい

毒内服薬
ホシサヨリン 1.00 3.00 5.00
 所謂、潜伏期、第一、第二、第三期の四期に分つ事は周知の事である、そして本病の恐ろしきは、今こゝに永々しく潜伏するを要しないであらう、本剤は病菌を速に體外に排泄すると共に健全なる細胞を新生し強壯ならしむる作用を持つものにしてヨードを主成分とする一種の變質薬なり。
 主治効能——梅毒、瘰癧、淋病、微毒性梅毒、微毒性ロイマチ

注射薬
ホシスルファミン 5.00
 本剤は我社の官本博士の創製によるコロイド状態に殺菌力の強大なるヨードを化学せしめた獨特なるものにて無痛の挿入薬である。
 主治効能——急性、慢性の淋病、尿道炎、膀胱炎、腎臓炎、膀胱カタル

東京 星製薬株式会社

氷水界ノ先進者

流線ケーキ

一個一錢

今回時代ノ要求ニ應ジ右ノ飲食物ヲ初メマシタ。御利用ハ御客様御來訪ノ折ノ御茶代用ニ、旅館、料理店様ノ御座敷用御茶ガワリニ、御子様方ノオヤツガワリニ色々御利用出來マス。

何卒御試食下サイ。

配達ハ五個以上

平ニ警察署裏通り

魚清食堂

電話六六三三

御參詣團體募集

一、柳居津國藏尊(猪苗代湖)白虎隊廻り
 出 申込 五月三十一日
 出 發 六月一日午前四時
 金二圓也

二、成田山(宇吾様)笠間稻荷廻り
 出 申込 六月三日
 出 發 六月四日午前三時
 金二圓五十銭

三、日光(笠間稻荷廻り)
 出 申込 六月五日
 出 發 六月七日午前一時
 金二圓五十銭

主催 尼子遊覽部
 電話 六四〇番

定員ハ各車共二十二名
 定員未滿ノ節ハ勝手ラ延期致ス事モアリマス
 尙御希望ニ依リ各種團體モ御相談ニ應ジマス

ホシチエンストア

月曜是非

位置の安定

最近平町の學校や官衙等に交迭異動が頻發し一時は送迎に暇ない程であつた、主腦者としては第二小學校長、警察署長、郵便局長等、其他課長級の異動は實に夥しいものがある。

變化必ずしも悪いとはいへぬが、變化の甚しいのは人心を安定せしめる所以でない、男子荷しくも事に當つたなら、何か爲すべき理想を有するに相違ない、その理想の實現は、左様に早く行はるものでないから相當の期間を要する事も素より當然である。

吾人は豫てより官吏の轉任の早きに遺憾を感じて居る、昨日赴任して、今後如何なる方針に出るならんと、相當の期待を懸けて居たら早や今日は他に轉任を命ぜられて居る、斯く眼にも止まらぬ程の早轉では、事務が擧らぬと思ふ。

然し早轉には何か早轉の理由がある、それは門外のものに分らぬ機微もあると思ふから多くを云ふ事が出来ぬけれど、早轉は確かに宜しい事では無い、昨日一の位置に据えて、今日之を變へねばならぬ程であるなら始めから斯くすべきでない、何としても變へねばならぬ程であるなら、その位置に据えた推薦者をも、何とかせねばならぬ事となす。

だらう、根本をそのまゝにして、末葉のみ機械的に動かすのは、至つて宜しからぬと思ふ。

を得た現在の平町の學校官衙等に餘り早急に異動等の見舞ふ事なく、人心の安定を欲するや切なるものがある。

農會長

各町村決定

郡下各町村農會農會長は任期満了となり本月十四日より各町村で夫々後任選舉を行つた結果左の如く決定した

泉上遠野定次郎 渡邊永山定秀 植田鷲清昇 山田秋山茂之助 錦金成欣二 勿來大平陸四郎 上遠野荒川熊藏 入遠野鈴木富吉 川部兒玉太入 田人蛭田千代之助 平諸橋久太郎 飯野伊藤涉之

助 夏井渡邊泰衡 高久本馬武 豊間鈴木藤次郎 江名河野嘉藏 鹿島志賀直哉 小名濱小野野平 玉川野崎滿藏 磐崎折内孝平 湯本仲里顯太郎 内郷沼田濱之助 好間金成淺治 永戸萩野庫太 神谷鈴木季義 大浦木村清治 四倉新妻盛 大野吉田盛治 平窪草野常彌 小川草野勇 川前宇佐美 今治

水田二毛作

郡下の品評會

石城郡農會主催の水田二毛作としての菜種、紫雲英、大麥等の共進會は六月一日から十日間各町村に開催の手筈である爲め目下青山、柴田、成田技手等が三班に別れ審査中だが審査方法は團体的訓練及び修養並に勤勞慣習農業組織の均衡耕作方法計畫の通否等各方面に亘るものであると

一一毛作の品評 既報 小川赤井兩村農會聯合の二

平劍道が

富岡に勝つ

既報平、富岡兩武徳會支部の劍道試合は昨廿六日平署道場で行はれ兩軍火華を散らして力戦したが平支部は個人試合を八對三、紅白試合は大將を残していづれも優勝したが兩軍のメンバー

第一校快勝

磐中運動會の呼び物

八百米繼走に

第三十五回磐中陸上運動會は昨廿六日午前九時半より新緑の高月臺上で華々しく開催され呼び物の郡下争覇小學生の八百米繼走は再び

素晴しい好記録

誇りの二分一秒九

別稿磐中の八百米繼走で再び凱歌をあげた第一校選手のタイムは二分一秒九で同校の從來の記録を遙かに突破した素晴らしいタイムで今後暫らくは此の記録を破れないだらうと云はれてゐる因に同校昭和三年以來の記録左の如し

昭和三年	二分十四秒六
同四年	二分十秒四
同五年	二分九秒九
同六年	二分八秒
同七年	二分十一秒
同八年	二分九秒九
同九年	二分八秒六
同十年	二分一秒九

は左の如くである

平	富岡
長谷川定雄	小田
齋藤 光正	愛場
大友 能一	矢内
大谷 次男	堀川
室井 誠吾	志賀
渡邊 温	楠
須藤 五郎	矢内
矢内 朝雄	木場
	正

山田 菅雄 遠藤 政見
遠藤 正彌 猪狩 馨
加藤 幸一 渡邊 末藏

磐炭野球勝つ 磐炭
野球部は昨廿六日午前十時から平町の揚土俱樂部を迎へ同級グラウンドで試合の結果八對一で磐炭チームが快勝した

山間部に

鮎の繁殖

鮎川漁業組合は郡南山間部に河川に鮎の繁殖を計る爲め鮎川河口より十萬匹を獲り去る廿五日木村水産試験場技手指導のもとに上遠野村の大龍上流及び入遠野、荷路、夫四時各川に放流したが同地方は鮎の繁殖に地質適當して居るのでその發育は優秀であると指導員から折紙を付けられた

平町人事

△泉村字根ノ内吉田銀司氏 (二六)長橋町佐藤キヨ

磐城セメント會社特約店



良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は生命なり

磐城平町五丁目 電話九番九九

東京短期(本日)

新東	寄付	大引	高値	安値
一四八	一三三	一四八	一三三	一三三
新大	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三
新新	一四八	一三三	一四八	一三三

期米

東	當期	中期	先期	大阪
一節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
三節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
四節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
五節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
六節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
七節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
八節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
九節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
十節	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇

妹を背負つた儘

溺れ子を救ふ

十三歳の勇敢な千鶴子さん

急流に飛び込む

鹿島村大字飯田字腰巻農稻沼哉氏長女千鶴子(一三)さんは昨廿六日午前十時頃妹の勝子(一〇)さんを背負つて村内谷田川附近を通り合した處河原で遊んで居た同字小泉政助六男光男(三)が降雨上りの急流に押し流され危く溺れかゝつて居るのを発見、勇敢にも妹を背負つた儘河中に飛び込み姉妹でズブ濡れとなつて流るゝ光男君を救助したが平署では此の勇敢な少女を縣へ申請して表彰する事になつた

齒痛押への梅干と

世間話と熱中の……

失火罪一件に罰金廿圓宛

大野村大字玉山字牧の下三無職長谷川マツノ(三〇)は去月廿三日午後九時頃養母キミノの虫歯治療の爲め二階へ梅干をとりに行きその際携へた提燈を桁へ掛け忘れ時経て發火、同家の居室一棟と隣家の石井榮五郎、木田富江、本間新太郎方へ延焼したまた湯本町大字湯本字笠井四鈴木ヨシイ(五)は去月廿日午前十時頃居室勝手の爐端に杉木を焚き残火の始末をせつ外出し近所で世間話に熱中して居る間に發火家屋一棟を焼いた兩名の失火事件は本日平區裁判所で略式罰金二十圓宛に處

六月一日好間村古河炭礦視察の爲め來郡、同村消防組頭叶多清氏方に二日滞在する豫定である

木賃宿で

知り合つた

同僚の衣類を盗む

平町鎌田町生土工渡邊國雄(三三)は去る廿四日猪苗代國道改修工事場で知り合つた安積郡大槻村生れ古川勇造(三二)と共に信夫郡吉井田村木賃宿菅野サツ方に宿泊した際古川の衣類其の他の所持品を窃取逃走したが同夜福島市内徘徊中を檢舉さる

高岡氏披露宴

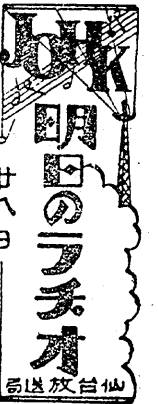
草野村故高岡元代議士令息文夫氏は先般岩崎清七氏夫妻の媒酌に依り横山徳次郎氏五女文子嬢と華燭の典を挙げ

明廿八日午後三時住吉屋本店にて披露の宴を張ると

佛式の結婚式

鎌田弘源寺住職高木補教氏は安戸性源寺住職の媒酌に依り

長橋町佐川朝壽氏長女ハツノ嬢(磐女卒業)と結婚式を



今晩は北西の風 明日は北東の風 晴曇半す

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間 物語「日本海大海戦」東京釣放送話劇協同會
後六、二五 趣味講座「ヤマベの回り方」海軍の夕
後七、三〇 講演「日本海軍の戦歴」小野田
後八、〇〇 海の歌謡曲
一、市丸、勝太郎、小野巡

船具代の

六百圓詐取

四倉町新町居住船具ブローカー國本幸二(三三)は去る廿日江名町仲ノ作漁業家山田熊三郎氏を言葉巧みに欺き船具代として六百圓餘の詐欺を働き昨廿六日平署に檢舉された

レビュー團

博覽會

を博した國際レビュー團伊東マツノ嬢の一行は新封切の大魔術と新舞踊を差加へ廿七八の二日間午後六時から聚樂館に開場するが愛讀者には場内整理の十錢のみで無料観覧に供すと

義太夫で慰安

小名濱在郷軍人分會は來月四、五の兩日同町の戦病没者の遺族と七十歳以上の高齢者を招待して素人義太夫の出

藝妓梅香が雲隠れ

滞在辯護士と秘密な打合せ

情夫は小間物行商人

平町新町町藝妓屋久本大久保ヨシ方藝妓梅香事北海道旭川市五條通六丁目伊藤清二女キヨ(三三)は昨廿六日夜前借金十五圓を踏倒して行衛を晦したが梅香には旭川に居た當時から同市で小間物行商を営む笠間徹三(三九)と云ふ情夫があり此の男の依頼で旭川四條通六丁目辯護士高月敬(五)が去る廿三日以來平町白銀町水戸屋旅館に滞在何事か梅香と打合せして居た模様依ると三名共謀の踏倒らしいと抱主の届出に依り目下平署は各地に手配中である

平職業紹介所報告

回人を求める方

△農夫 二十才 月十五圓
△女中 二十前後 尋卒
△牛乳配達 二十五才 高卒 月十三圓
△理髮職 二十五才 尋卒 食事付月十圓
△回職を求める方
△外交員 二十一才 尋卒

平裁判たより

△大沼郡本名村生れ住居不定無職窃盜前科五犯青柳義信(三)が去る八日より廿一

ス 氣象通報 番組
明日の部
前七、〇一 朝の修養 天路歷程 二、虚榮の市齊藤惣一
前八、〇〇 幼児の時間 唱歌とお話「廣瀬中佐の語」細川武子
前九、〇〇 婦人講座 「老人の心理」橋本勝
後九、〇五 獨唱と管絃樂 歌劇セミラミード 永田絃次郎 日本放送交響樂團
後二、〇〇 小學生の時間 修身唱歌とお話「二宮金次郎」深澤一郎

後二、四〇 小學生の時間 唱歌「植生の宿」
後四、二〇 社會見學 宇字茶摘製茶實況上林檎道
後六、〇〇 子供の時間 お話「曾我の傘焼き」藤田茂
後六、二五 青年の時間 「後世長るべし」廣濱嘉雄
後七、三〇 講演「茶と人類の健康増進」板野新夫
◎滿洲の夕
後八、〇〇 大連歌謡曲唄 美知子外數種
後八、四〇 哥澤「忘れねばこそ」哥澤芝勢以
後九、〇〇 連續ラヂオ小説「索馬行」市川小太夫

△職工 二十六才 中卒
△看護婦見習 二十才 看護校卒
△水配達 二十五才 高卒

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

市原醫院

平・田町 電話一一四番



明治太平記

(作) 寺島証史
(畫) 野口

第三百三十三回

夜延寮館景 (十四)

「大隈君」

江藤は改つた調子で言つた。

「廣澤を殺した奴は大久保ぢやといふ評判ぢやが、どうぢやな」

「まさか」

「いや、どうもさうらしいぞ」

「まさか」

大隈は眉毛一つ動かさぬ。「しかし、廣澤の愛妾の、そのまた情婦がさう言ふて居るさうぢや。渡邊昇君から聞いたのぢやが井手六三郎といふ男が嫌疑の一人としてつかまつてな、取調べられた際にそんな事を申立てたさうぢやよ」

「虚言妄言に過ぎんぢやろ」

「君は、どうして大久保の肩を持つんぢや」

「なにも、大久保を最良するんぢやないが、さう云ふ事を云ひふらして歩くと、それでなくとも不統一な新政府がよけい危険になるぢやないか。それに井手如きの申立てを信じて評判する君もちと輕卒ぢやよ」

「何んの、輕卒なものか。おれはもとく大久保が殺したものだと思つて居るんぢやから仕方がない」

「そんな事を云ふと君も殺されるぞ、ハ、ハ、ハ、」
大隈もまた心にもない笑



ひをもらした。

「市藏にか、殺られて見たいものぢやのうハ、ハ、ハ、」

おふくは長椅子から身を浮かした。

「江藤様向へ参りませう」

「踊りか……踊るよりかもう歸らう、馬車の用意は出來て居る」

江藤とおふくは肩をならべてドアの方へ歩きだした。「……」
大くまは、何か云はうとしたが其の儘口をつぐんでじつと、おふくのあでやかな襟足を見つめた。

「……」
大くまは、何か云はうとしたが其の儘口をつぐんでじつと、おふくのあでやかな襟足を見つめた。

料亭濱の家の奥まつた雑室——
江藤とおふくのたゞ二人きりの場面だつた。お馬車から降りてからのものゝ一時とたないが、何んとなくと夜更けといふ感じが、しみんとてゐる。

わきが
効力本位、官許良薬海外に迄有名、價五十錢誰にも氣付かれぬ様送る双葉郡浪江下町西 田村本家

五月武者人形 大賣出し
御座敷幟、布鯉、鎧、兜 諸道具類一式
例年の通り豊富陳列致しました。是非御一覽之程御待ち願ひます。値段は特に勉強いたします。但珍物として勿來關人形、
平町三丁目東通

叶加藤商店

吉田眼科病院
平細屋町電話六六番
醫學士 吉田久雄

花柳病の撲滅を提唱す

陽春期を迎へ 徹底的治療が肝要

一、花柳病發生に時期はないが、生物すべてが生殖期を來する陽春期が矢張り一番感染率が多く、また一度感染した人でも徹底的な治療を怠るために再發し、人生にとつて樂しむ可き陽春の春も、花柳病にとつては決して愉快なものではなく、人生の幸福感を自覺すればする程、その苦悶から退いて一人悄然と暗夜に立つ鬱々を産み種々の悲劇に墜れる多くはこの春である。

二、花柳病の怖しさに就いては何人もこれを察知して居る通り、この疾病故に最大恥辱である人となつたり、また幸福なる家庭を離れたり、前途ある身を自ら死を選び花柳病から起る悲劇は益々増へる一方、國家のため河に慨嘆したへない。

三、本社ではこの怖しい「花柳病」を徹底的に撲滅せんがため、左記本社製品の全國的大賣出しを行ふこととなつた。我々の花柳病撲滅は歴史と、最新の學理に基く研究によつて完成された優秀な薬であることは一般の認むるところである。

四、近時花柳病の種多、醫利主義の安心ならぬ醫藥が市井に溢れて居るが、こうした薬に依つては決して快復を望むことが出來ないばかりでなく、むしろ病勢を益々悪化させるのみである。

五、花柳病の克服も信用ある藥の服用に依つてのみ希望は達せられる。あれこれと迷はずに「ホシシクロ」を求め、亡國病の治癒と預防に萬全を期していただきたい。

花柳病豫防藥
ホシシクロ 1.00 2.00 3.00 5.00
豫防藥の元祖とも云ふべく世に「シクロ」の名を稱へての類似品ありこれにてもその眞價を知らるべし

痲病内服藥
ホシシクロノール 1.00 3.00 5.00
痲病はゴロツケン風の感染による恐るべき病疾にて、痲毒が眼に入ると痲痺性結核(風眼)を起して失明に至る程である。ホシシクロノールは痲毒の侵入を阻止し、眼に防腐消毒の力を附與せしめ以つて感症の発症を消滅して治癒の目的を達するものである。

痲病注射藥
ホシシクロノール 50
主治効能——急性、慢性の淋病、消渴、膀胱炎、膀胱カタル

星電 429 舖番
ストア平支部